



防災を考える。

～ vol.1 ～

平成 23 年度県中防災訓練より

東日本大震災から3年を経過した今、あらためて防災について考えてみましょう。

『自助・共助・公助』

I 自助

「自らの安全は、自らが守る」が防災の基本になります。

自宅を安全な空間にすることや、日頃から非常食を備蓄しておくことなどは、自分にしかできないことです。

災害が発生したときは、誰もがまず自分の身を守ることにできません。自分の身の安全が確認できた後、いち早く家族を救うことができるのも自分です。

こうした自分の手で自分・家族・財産を守るための行動や備えが「自助」です。

◇家族で災害について(避難経路や連絡方法)話し合いましょう。

◇水、食糧、医療品などの物資を備蓄しましょう。

◇家具類の転倒を防止しましょう。

II 共助

「わがまちは、わが手で守る」が地域を守る最も効果的な方法です。

自宅が無事であったとしても、隣の家から出た火を放っておけば、自分の家も燃えてしまいます。隣の家の火を消すことも、自分の家を守る方法の一つです。

自分が生き埋めになったとき、それに気付き、救出活動を始めてくれるのは誰でしょう。

震災のような広い地域を襲った災害では、消防や警察も、同時にすべての現場に向かうことはできません。それに自衛隊など被災地の外からの応援の到着には時間がかかります。身近な自主防災会や消防団など、地域の中で協力して地